



徒歩登下校を「義務」から「楽しみ」へ

1 地域課題

- ①保護者による自家用車での児童送迎が増加し、登下校時に学校周辺で乗降による交通渋滞が発生
- ②学校現場（校長先生や教頭先生）・PTAなどと意見交換を行ったところ、登下校するにあたり交通立哨ボランティア担い手不足により地域安全確保も難しい



2 どうして「てくてく」登下校

- ①子どもたちの健やかな健康の為に
日常的な運動習慣の定着と体力の向上
- ②自立性と社会性を身に着ける為に
危険予測能力や交通ルールの遵守、友達とのコミュニケーション機会の創出
- ③地域コミュニティの活性化の為に
登下校の見守りを通じた、世代間の交流と地域全体の繋がりの強化



3 今後のWell Beingのプラン

- ①基盤づくりと共通理解の形成
準備と理解。地域調査、広報、ボランティア募集
- ②実践展開と効果検証
実行と測定。楽しい活動を展開し、徒歩率を追跡
- ③横展開と持続的定着
拡大と持続。成功モデルを近隣校へ展開



「登下校」を健康・安全・つながりの場に



4 Well Beingのミッション

「登下校」という毎日必ず発生する生活行動を、単なる移動時間から、健康・安全・繋がりを生み出す公共資源へと転換する取組である。既存の生活動線を最大限に活かすことで、過度な予算措置や新規インフラ整備に依存せず、子どもの健康増進、事故・犯罪リスクの低減、地域の見守り力向上を同時に実現する。行政・学校・地域が無理なく関われる設計により、持続可能かつ再現性の高い地域モデルの構築を目指します。